

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年2月14日

【四半期会計期間】 第100期第3四半期(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

【会社名】 三菱化工機株式会社

【英訳名】 Mitsubishi Kakoki Kaisha, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 田中 利一

【本店の所在の場所】 神奈川県川崎市川崎区大川町2番1号

【電話番号】 044(333)5354

【事務連絡者氏名】 経理部長 根木 貴晴

【最寄りの連絡場所】 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア東館

【電話番号】 044(333)5354

【事務連絡者氏名】 経理部長 根木 貴晴

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第99期 第3四半期 連結累計期間	第100期 第3四半期 連結累計期間	第99期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2023年4月1日 至 2023年12月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (百万円)	31,375	34,220	44,590
経常利益 (百万円)	2,417	3,553	2,859
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,563	4,277	3,043
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,142	3,568	3,543
純資産額 (百万円)	29,924	33,047	30,325
総資産額 (百万円)	50,579	56,027	52,899
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	205.36	561.60	399.66
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	59.2	59.0	57.3

回次	第99期 第3四半期 連結会計期間	第100期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日	自 2023年10月1日 至 2023年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.63	351.22

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 当社は、「役員報酬BIP信託」を導入しております。当該信託が保有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式として計上しております。そのため、1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上、当該株式数を期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済社会活動の正常化が進み、雇用・所得環境が改善する中で、個人消費、民間設備投資には持ち直しの動きがみられ、景気は一部に足踏みもみられるものの緩やかな回復基調で推移しました。一方で、世界的な金融引き締め等が続く中で海外景気の下振れによる国内景気下押しリスク、地政学リスクの高まり、資源価格や原材料価格の高騰、円安を背景とした物価上昇等に注意する必要がある状況となっております。

このような事業環境の下、当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は、34,220百万円と前年同四半期に比べ9.1%の増加となりました。損益面におきましては、研究開発費・人件費等の販売費及び一般管理費の増加がありましたが、売上原価率の改善、売上高の増加による売上総利益の増加等により、営業利益は前年同四半期に比べ57.1%増加の3,305百万円となり、経常利益は、前年同四半期に比べ47.0%増加の3,553百万円となりました。また、固定資産撤去費用176百万円を特別損失に計上いたしましたが、投資有価証券売却益2,384百万円、固定資産売却益425百万円を特別利益に計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期に比べ173.5%増加の4,277百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

エンジニアリング事業については、売上高23,330百万円(前年同四半期比7.9%増加)、営業利益1,366百万円(前年同四半期比172.5%増加)となりました。

単体機械事業については、売上高10,889百万円(前年同四半期比11.7%増加)、営業利益1,938百万円(前年同四半期比21.0%増加)となりました。

財政状態におきましては、当社グループの当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ3,127百万円増加の56,027百万円となりました。これは、現金及び預金の減少845百万円、政策保有株式を売却したこと等による投資有価証券の減少1,621百万円等がありましたが、受取手形、売掛金及び契約資産の増加1,590百万円、電子記録債権の増加1,733百万円、仕掛品の増加637百万円、有形固定資産の増加1,369百万円、主として退職給付に係る資産の増加による投資その他の資産のその他の増加324百万円等の影響によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ404百万円増加の22,979百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金の減少569百万円、賞与引当金の減少475百万円、完成工事補償引当金の減少601百万円等がありましたが、契約負債の増加1,882百万円、流動負債のその他の増加98百万円等の影響によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,722百万円増加の33,047百万円となりました。これは、政策保有株式を売却したこと等によるその他有価証券評価差額金の減少762百万円等がありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加3,432百万円等の影響によるものであります。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、449百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日 現在発行数(株) (2024年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,913,950	7,913,950	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	7,913,950	7,913,950		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年10月1日～ 2023年12月31日		7,913,950		3,956		4,202

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 228,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,663,000	76,630	
単元未満株式	普通株式 22,050		
発行済株式総数	7,913,950		
総株主の議決権		76,630	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、100株(議決権の数1個)含まれております。
2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式68,600株(議決権の数686個)が含まれております。
3. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式77株及び役員報酬B I P信託が保有する当社株式34株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
三菱化工機株式会社	川崎市川崎区大川町 2番1号	228,900	-	228,900	2.89
計		228,900	-	228,900	2.89

注) 当第3四半期会計期間末日現在の当社が保有する自己株式は、上記の自己保有株式のほか、役員報酬B I P信託が保有する当社株式68,634株を四半期連結財務諸表上、自己株式として処理しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2023年10月1日から2023年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,115	12,269
受取手形、売掛金及び契約資産	18,901	1 20,492
電子記録債権	1,554	1 3,287
製品	709	670
仕掛品	1,959	2,597
材料貯蔵品	1,045	969
その他	1,749	1,743
貸倒引当金	6	7
流動資産合計	39,029	42,022
固定資産		
有形固定資産	4,964	6,334
無形固定資産	345	405
投資その他の資産		
投資有価証券	6,535	4,913
その他	2,049	2,373
貸倒引当金	24	21
投資その他の資産合計	8,559	7,264
固定資産合計	13,870	14,004
資産合計	52,899	56,027
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,912	5,343
電子記録債務	3,492	3,479
1年内返済予定の長期借入金	500	-
未払法人税等	1,071	1,145
契約負債	1,074	2,957
賞与引当金	881	405
役員賞与引当金	18	15
完成工事補償引当金	1,405	803
受注工事損失引当金	148	82
その他	1,123	1,222
流動負債合計	15,627	15,456
固定負債		
長期借入金	2,800	3,300
役員報酬B I P信託引当金	62	85
退職給付に係る負債	3,760	3,810
その他	323	326
固定負債合計	6,946	7,522
負債合計	22,574	22,979



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,956	3,956
資本剰余金	4,203	4,203
利益剰余金	19,565	22,997
自己株式	540	541
株主資本合計	27,185	30,616
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,902	2,139
繰延ヘッジ損益	24	1
為替換算調整勘定	251	215
退職給付に係る調整累計額	464	508
その他の包括利益累計額合計	3,139	2,431
純資産合計	30,325	33,047
負債純資産合計	52,899	56,027

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	31,375	34,220
売上原価	24,736	25,800
売上総利益	6,639	8,419
販売費及び一般管理費	4,535	5,114
営業利益	2,104	3,305
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	341	226
為替差益	73	145
その他	6	5
営業外収益合計	422	379
営業外費用		
支払利息	23	22
訴訟関連費用	30	50
支払手数料	29	33
その他	25	23
営業外費用合計	109	130
経常利益	2,417	3,553
特別利益		
投資有価証券売却益	-	2,384
固定資産売却益	-	425
特別利益合計	-	2,809
特別損失		
固定資産撤去費用	126	176
特別損失合計	126	176
税金等調整前四半期純利益	2,291	6,186
法人税、住民税及び事業税	150	1,555
法人税等調整額	577	354
法人税等合計	728	1,909
四半期純利益	1,563	4,277
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,563	4,277

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	1,563	4,277
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	144	762
繰延ヘッジ損益	24	26
為替換算調整勘定	66	35
退職給付に係る調整額	1,343	44
その他の包括利益合計	1,578	708
四半期包括利益	3,142	3,568
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,142	3,568

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権

四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理をしております。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
受取手形	- 百万円	121百万円
電子記録債権	-	198

2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約及び貸出コミットメントライン契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
当座貸越限度額及び 貸出コミットメントの総額	5,300百万円	5,300百万円
借入実行残高	-	-
差引額	5,300	5,300

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

当社グループの売上高は、連結会計年度末に集中する傾向にあり、各四半期連結会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
減価償却費	470百万円	485百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	537	70	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

(注) 2022年6月29日定時株主総会の決議による配当金の総額には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式に対する配当金5百万円が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	614	80	2023年3月31日	2023年6月30日	利益剰余金
2023年10月31日 取締役会	普通株式	230	30	2023年9月30日	2023年12月1日	利益剰余金

(注) 1. 2023年6月29日定時株主総会の決議による配当金の総額には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式に対する配当金5百万円が含まれております。

2. 2023年10月31日取締役会の決議による配当金の総額には、役員報酬B I P信託が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	エンジニアリング事業	単体機械事業	
売上高			
(1) 外部顧客に対する 売上高	21,625	9,750	31,375
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	-
計	21,625	9,750	31,375
セグメント利益 (営業利益)	501	1,602	2,104

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	エンジニアリング事業	単体機械事業	
売上高			
(1) 外部顧客に対する 売上高	23,330	10,889	34,220
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	-
計	23,330	10,889	34,220
セグメント利益 (営業利益)	1,366	1,938	3,305

(収益認識関係)

当社グループは、売上高を顧客の所在地を基礎とした国または地域に分解しております。  
分解した地域別の売上高と報告セグメントとの関係は以下のとおりです。

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	エンジニアリング事業	単体機械事業	
地域別			
日本	13,346	7,207	20,554
アジア	8,278	1,602	9,881
その他		939	939
顧客との契約から生じる収益	21,625	9,750	31,375
財又はサービスの移転時期			
一時点	3,340	8,682	12,023
一定の期間	18,284	1,067	19,352
顧客との契約から生じる収益	21,625	9,750	31,375
その他の収益			
外部顧客への売上高	21,625	9,750	31,375

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	エンジニアリング事業	単体機械事業	
地域別			
日本	19,092	8,475	27,567
アジア	4,201	1,515	5,716
その他	36	899	935
顧客との契約から生じる収益	23,330	10,889	34,220
財又はサービスの移転時期			
一時点	3,556	10,032	13,588
一定の期間	19,773	857	20,631
顧客との契約から生じる収益	23,330	10,889	34,220
その他の収益			
外部顧客への売上高	23,330	10,889	34,220

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	205円36銭	561円60銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,563	4,277
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,563	4,277
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,614	7,616

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、役員向け業績連動型報酬制度を導入しております。役員報酬BIP信託が保有する当社株式を1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。なお、前第3四半期連結累計期間に信託が保有する期中平均自己株式数は70,166株であり、当第3四半期連結累計期間は68,634株であります。

2 【その他】

第100期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)中間配当について、2023年10月31日開催の取締役会において、2023年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- (1) 配当金の総額 230百万円
- (2) 1株当たりの金額 30円00銭
- (3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 2023年12月1日



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月14日

三菱化工機株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大屋 誠 三 郎

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐藤 重 義

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱化工機株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三菱化工機株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。